



# 明化の教育

2月号（第486号）  
令和3年1月29日  
文京区立明化小学校  
校長 熊倉 勝



## 心のもち方

副校長 松下 由紀子

昨年末、6年生が本校の代表として、東京都の取組である小中学生が医療従事者へ感謝の手紙を書きました。子供たちは感謝の気持ちとともに自分が気を付けていること等、新型コロナウイルスを通じた様々な取組や思いを真剣に手紙にしたためていました。

1月に入り、病院の院長先生から子供たちからの手紙に対する御礼の手紙をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

拝啓

この度は、たくさんの励ましと労わりのメッセージをお送り頂きありがとうございました。皆様のもとでも心温まるメッセージを読んで、職員一同、感動し、涙を流している人もたくさんいました。病院職員を代表しまして心より御礼を申し上げます。

皆様方も大変な不安とストレス、不自由さの中で日々過ごされているとお察しいたします。この新しいウイルスは、肺炎などの病気を引き起こすウイルスであり、不安や恐れという人の心を傷つけるウイルスであり、不安や恐怖から「嫌悪・差別・偏見」を生み出すという人の弱さを明らかにするウイルスです。

どうぞ皆様、このようなウイルスに負けないでください。「正しく恐れよ」です。誰もが感染する可能性があります。人からうつされる心配をするより、自分の方が感染していると考えて他の人にうつさないように心がけることの方がとても大切であり、心も休まります。バランスの良い食事をとって、睡眠時間もたっぷり、手洗いをきちんと行って、人が集まる時、話す時にはマスクを着けるなど、標準的な予防をすれば大丈夫です。

今、私たち一人一人の覚悟が試されています。私たちの行動は、必ずや後で振り返った時に誇りを持って自分自身に語って聞かせることができる物語になると信じています。

これからも病院職員一同、皆様方の健康を守るため、少しでもお役に立てるように頑張っています。

先行きが見通せない中、どうせなら不確実性を楽しみましょう。皆様もどうぞお元気でお過ごしください。ありがとうございました。

敬具

御礼の気持ちとともに、人の健康に直接的に関係する現場でどれだけの出来事があったのか考えると、胸に迫ってくる思いです。それは、今年1年、今までにない生活を送ってきた子供たちも同様でしょう。それでも、子供たちは変化に柔軟に対応しながら、明るく、自分自身を大きく成長させました。それは子供たちがとても健やかな心でもってしっかりと学び、ここまでの日々を過ごせたからだと思います。子供たちは、後2か月で進級します。どんな変化にも対応できる力をつけたことに自信をもって上の学年に上がる様子を、保護者・地域に見守っていただければ幸いです。

さて、この一年、最高学年として明化小を引っ張ってきた6年生の小学校での登校日数は、38日となりました。一緒に過ごせる期間が僅かなことは非常に残念ですが、思い出深い学び舎や先生、子供たちと共に、少しでも多く心に残る時間を過ごしてほしいと思います。